

プロジェクトリーダー:金城学院大学 生活環境学部 北森一哉教授

事業実績調書

(1) プロジェクト名	小学生の健康状態の実態把握と改善に向けた取組
(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)	<p>2020年度単年度の予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施困難な取り組みも出てきたため、活動期間を1年延長し2021年度まで延期した。</p> <p>本取組の目的は、①小学生の健康状態を客観的に数値で把握する。②小学生の健康状態を改善するための、健康教育教室を実施する。の2点であった。しかし、②は新型コロナウイルス感染症の影響により実施が難しいことから次年度に延期し、本年度は、①小学生の健康状態を客観的に数値で把握することのみを実施した。</p> <p>瀬戸市の肥満傾向の児童の割合は全国平均程度であった。しかし、血中成分の分析から健康状態を総合評価すると、基準値範囲の児童は半分に満たないことから、肥満傾向のみの判断には限界があることが示された。また、健康総合判断と間食・ファーストフード・ジュースの摂取との間に関連性は認められず、健康総合判断と特に関連が強い項目は、食事の速さであった。</p>
(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)	<p>瀬戸市学童の実態を評価するため、瀬戸市学童期生活習慣病対策事業の同意を得た方に実施されている健診結果から、個人情報を取り除いたデータを分析した。</p> <p>対象者数は、瀬戸市学童2018年度794名、2019年度881名、計1675名であった。解析対象者数は、対象者から質問紙不備75名、採血項目不足18名を除いた、1,580名とした。</p> <p>評価項目は、身長、体重、腹囲に加え、血液から脂質、貧血、肝機能、血糖、尿酸等とした。加えて、質問紙により、運動・睡眠・食習慣（量・速さ・間食・好み等）の生活習慣を評価した。</p> <p>全ての解析は、IBM SPSS Statics 27.0を使用し、有意水準は5%とした。</p> <p>金城学院大学ヒトを対象とする研究に関する倫理審査委員会の承認を得て解析を実施した。</p>
(4) プロジェクトの今後の課題と展望	<p>肥満傾向のみの判定では、学童の健康状態を評価するには不十分である可能性が示され、血液検査の重要性が示唆された。これらのことから、継続した血液検査の実施が望まれる。</p> <p>また、健康総合判断と関連の強い生活習慣項目として、「食事の速さ」が明らかとなった。子どもへの生活指導の際に、食事の速さを盛り込むことが効果的かもしれない。今回、具体的に何をどれだけ摂取しているかの調査は実施されていない。そのため、習慣的な食事調査の実施が望まれる。</p>

